
認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク
評価事業報告書 2023

2024年6月

トリトンアーツ評価委員会

皇居のお濠端に誕生し、1989年に37年間の活動を終えた旧第一生命ホールが、現在のトリトンスクエア内の第一生命ホールとして生まれ変わり、音響効果の優れた音楽ホールとして開館したのは2001年11月15日。11月23日に開催されたオープニング記念特別シンポジウム「アウトリーチで行こう！～音楽とコミュニティの〈相互〉な関係～」(主催：NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク・(株)ライフデザイン研究所)で、私は「音楽で市民や地域を元気にしよう-アウトリーチ活動のすすめ-」と題した基調講演をさせていただいた。

当時は、アウトリーチが全国各地に広がり、定着しつつあった時代だった。そして、1998年12月に施行されたNPO法に基づいて、全国各地にアートNPOが誕生し、芸術と地域を結びつけたり、アートをとおして社会的な課題と向き合ったり、さらには遊休施設などを活用して、新たな文化拠点やクリエイティブな場づくりに取り組んだり、アートNPOが多様な成果を生み出していた時期だった。

まさにその二つを重ねるように、トリトン・アーツ・ネットワークというNPOが、ホールでの演奏会だけではなく、地域の子どもたちを対象にしたアウトリーチを積極的に展開する形でスタートした。それを支えたのがホールのオーナー第一生命保険株式会社(当時は相互会社)である。民間企業のメセナ活動も、芸術そのものを支援する「芸術のためのメセナ」に加えて、芸術支援を通して社会的な課題にアプローチする「社会のためのメセナ」へと広がりつつあった。ホールでの演奏会とアウトリーチはまさしくそれぞれに対応するもので、いわば企業メセナの両輪を20年以上にわたって展開してきたのが、トリトン・アーツ・ネットワークだと言える。

オープニング記念のシンポジウムに協力させていただいた時、まさか20年以上後に評価委員会の委員長を務めることになる、とは思ってもみなかった。今回、トリトン・アーツ・ネットワークの事業や運営の実績に関する資料を拝見し、そしていくつかの演奏会、アウトリーチを視察して、今でも、設立時のミッションからブレることなく、幅広い事業を実施していること、そしてそれを20年以上積み重ねてこられたことに感銘を受けた。

もうひとつ、設立2年目から、外部の専門家による評価委員会を設けて、事業や運営の実績や成果について評価事業を継続していることも注目すべき事実ではないかと思う。自らの活動を客観的に評価し、それを社会に公表するというアートNPOとしての姿勢に深く共感する。

幸い第8期の評価委員会は、公立の音楽ホール、企業メセナ協議会、小劇場運営と地域連携事業を展開するアートNPO、クラシック音楽の事業協会という立場の異なる専門家の方々に参加いただくことができ、これ以上ない顔ぶれとなった。

その評価の結果は「2. 評価委員会による評価と検証」に記載したとおりであるが、委員会での検討に基づき、1年間の実績や成果の良し悪しや目標の達成度合いを判断するランク付け（○△×等）は行わないこととし、「評価できる点」「改善すべき点／今後の取り組みが期待される点」の二つの枠組みを設定して、評価項目ごとに各委員から意見やコメントを出していただき、評価項目ごとにその傾向を整理した上で、主要なコメントを要約、列記することとした。

トリトン・アーツ・ネットワークにとって、それらが2023年度の事業や運営の振り返り、そして2024年度以降の活動に有効に活用されることを願いたい。

2024年5月

第8期トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会
委員長 吉本光宏

第 I 部 トリトン・アーツ事業への評価について

2023 年度はトリトン・アーツ評価委員会の第 8 期初年度であり、2024 年 4 月から 5 月にかけてトリトン・アーツ会議室で実施した 3 回の評価委員会を中心にして、トリトン・アーツの上記年度の活動を評価した。

認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク 第 8 期評価委員会

1. 委員会メンバー

委員長 吉本 光宏（文化コモンズ研究所 代表）
委員 新井 鷗子（横浜みなとみらいホール 館長）
委員 齋藤 望（企業メセナ協議会 認定・顕彰担当）
委員 田中 真実（NPO 法人 S T スポット横浜 副理事長・事務局長）
委員 丹羽 徹（日本クラシック音楽事業協会 常任理事・事務局長）
事務局 伊志嶺絵里子（東京藝術大学音楽学部 非常勤講師）
オブザーバー 的場 康子（第一生命経済研究所）
オブザーバー 田畑 菜穂（第一生命保険 コーポレートコミュニケーション部）

2. 2023 年度評価委員会開催記録

第 1 回 2024 年 4 月 3 日（水） 10:00～12:00

第 2 回 同年 4 月 16 日（火） 16:00～18:00

第 3 回 同年 5 月 8 日（水） 10:00～12:00

いずれも、トリトン・アーツ会議室にて開催

3. 第 8 期評価活動（第 1 年次）概要

第 1 年次の評価は、トリトン・アーツから提出された事業データ（主催・共催公演一覧、コミュニティ活動一覧、ファンドレイジング状況、2023 年度事業計画振返り、決算書など）、そして当該年度に各委員が視察した公演・活動に対する所見にもとづき、上記 3 回の委員会、および必要に応じて行われた電子メールでの意見交換を経て取りまとめた。

第 1 回委員会では、トリトン・アーツからの当該年度の事業全般についての報告及び質疑応答を通じて、メンバー全員で今年度評価を行うための基本的な情報共有を行った。

第 2 回委員会では、第一生命ホールとトリトン・アーツとの関係性及び、2023 年度事業計画の振返りについてヒアリングを行うとともに、過去の 3 期分の評価項目などを参考資料として、今年度の評価項目を決定した。その後、委員が各評価項目に対する評価を持ち寄り、トリトン・アーツに対して必要に応じて事実関係の情報提供を求め、第 3 回委員会を経て評価を取りまとめた。

以下に示す報告 2 の部分は、これらの委員会での検討結果をとりまとめ、後日に委員の確認を経て確定したものである。

第Ⅱ部 2023年度活動評価

1. トリトンアーツによる評価

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類感染症に移行となったことでガイドラインや様々な制約がなくなり、ようやく日常が戻ってきたと感じられた年だった。コミュニティ活動では一部まだ影響があったものの、ホール公演事業では主催・共催とも2019年度以来はじめて延期や中止なく予定どおり実施、多くの方と音楽を共有することができた。人々が集まって共に音楽を楽しむという自然で必須の営みが制限されたコロナ禍を経たことで、あらためて私たちのビジョン「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッション「音楽によるコミュニティの活性化——音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」の意味するものは大きいと実感している。ビジョンを共有し支え続けてくださっている会員、寄付者、サポーターの皆さまにはあらためて感謝申し上げたい。

ホール公演事業

第一生命ホール主催公演では予定通り24公演を行い、チケット売上枚数、売上額ともに前年度をさらに上回る過去最高の数字となった。チケットデスクの顧客分析からは、リピーターが65%と、シリーズや複数年単位の企画を楽しみに継続して足を運んでくださるお客さまが多いことが分かる。

ホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ（晴れオケ）」（コンサートマスター：矢部達哉）は、2027年のベートーヴェン没後200年記念の年に向け5年にわたる2巡目のベートーヴェン交響曲全曲演奏会を開始した。ピアニスト小山実稚恵による「小山実稚恵の室内楽・新章」も、矢部達哉（ヴァイオリン）と宮田大（チェロ）とのトリオを核にした室内楽の新シリーズ（5年間）を満席でスタート、宮田大は自身とチェロの多様性を追求する「Dai-versity」シリーズを2022年度から始動しており2年目も完売となった。

同じく2年目を迎えた「ごほうびクラシック」シリーズは、村治佳織のソロとデュオをはじめ、東京メトロポリタン・ブラス・クインテット、葵トリオ（ピアノ三重奏）、若手ピアニスト4人が集った「ピアノ・オールスターズⅡ」など4回の公演を行い、新規のお客さまも多く呼び込んだ。開場時のストレッチコーナー、アフタートーク、キッズ企画、公演動画プレミア公開、トリトン内飲食店クーポン配布など、公演に付随した様々な試みもしている。

「子どもといっしょにクラシック」では、ロビーでの「0～3歳児のためのコンサート」を年3回、ホールで4歳以上入場可とするコンサートを年3回実施。コロナ禍で歌えない時期が続いた子どもたちのために企画した「心にひびく歌のコンサート」は券売数に課題は残ったが、合唱と絵本のコラボレーションにも挑戦でき顧客満足度も非常に高かった。「クリスマス・オーケストラ・コンサート」は1日3回公演がほぼ完売、「音楽と絵本コンサート『うきわねこ』」は、再演であることを活かしてより充実した内容をおおくりできた。なお、過去の「音楽と絵本」から2023年度も「ぴっぽのたび」「おまえうまそうだな」が、地方のホールに企画を提供する形で上演されている。

ホール開館当初からの「クァルテット・ウィークエンド（SQW）」では、若手の団体の躍進が著しい。日本を代表する常設の弦楽四重奏団クァルテット・エクセルシオが若手演奏家と共演する企画は5回目となり、その2回目に共演したクァルテット・インテグラは、その後単独でシリーズを持ち、3年企画の2年目

を迎えた。ウェールズ弦楽四重奏団が若手の室内楽奏者、弦楽四重奏団を育成したいと始めた「ウェールズ・アカデミー」は2年目となるなど、意義のある企画を継続して提供できている。

「室内楽ホール de オペラ」では、初めて月1回3か月連続で「林美智子のモーツァルト／ダ・ポンテ三部作」を実施。新キャストやホール舞台スタッフも一丸となり、第一生命ホールならではのオペラ公演を成功させ、3作目の「フィガロの結婚」は完売になった。

三浦一馬（バンドネオン）率いる「東京グランド・ソロイスツ（TGS）」では、ネストル・マルコーニとの共演が実現、プレミアムコンサートとして初の2日連続公演を行い、2日間とも完売となった。

「バボラク・アンサンブル」や、ごほうびクラシックシリーズの「東京メトロポリタン・ブラス・クインテット」や「ピアノ・オールスターズⅡ」などでは、ねらいどおりU25券の券売が伸び、若い観客を呼び込むこともできた。

コミュニティ事業

2023年度は41回（オープンハウスを入れて42回）実施、コロナ禍前に実施していた病院、介護施設などでまだ実施できない施設が一部あり、2022年度と同数となった。

小学校、中学校でのアウトリーチでは、ご要望を伺って金管五重奏、マリンバ、ピアノ、和楽器体験付きなど様々な内容を提供しているが、コロナ禍で歌えない時期が続いた子どもたちのために歌を希望した小学校が2校あり、子どもたちも一緒になって歌うことができたことは印象的だった。

「アウトリーチセミナー」修了生が組んだ弦楽四重奏で、幼稚園、保育園、認定こども園などでアウトリーチを行い、例年同様に東京文化会館が主催する4館（他は東京芸術劇場、サントリーホール、トリトンアーツ／第一生命ホール）連携の若手支援コンサートに出演した。東京オリンピック選手村跡地の「晴海フラッグ」商業施設のオープニングセレモニーでも演奏するなど、修了生に対して様々な演奏の機会を提供できた。この「晴海フラッグ」は2024年1月から入居が始まり最終的には12,000人が住む街が誕生することになる。2024年4月からは中央区立晴海西小中学校も新設され、我々が地域で求められる活動の幅がさらに広がることは間違いない。

中央区と連携した「中央区民カレッジ」では例年通り公演（バボラク・アンサンブル）の関連講座を実施したほか、デビュー講座、卒業式でも「アウトリーチセミナー」修了生が活躍した。

人材育成事業

若手演奏家対象の「アウトリーチセミナー」は、前年度に「ウェールズ・アカデミー」を受講したクァルテット・アベリアが受講、初めて講師が演奏に入らない形で実施したが、気どころ知れたアンサンブルを活かし、オープンハウスを経て小学校2校でアウトリーチを実施、第一生命ホールでのロビーコンサートに出演し好評だった。2期目を迎えた「ウェールズ・アカデミー」ではレッスンの様子を記録した動画をYouTubeで公開、公開リハーサルを3回実施するなど、充実したレッスンの様子を広く知ってもらえるよう取り組んだ。

サポーター（ボランティア）活動に関しては、年度初めは大人数が集まったの登録会などはできなかったが、1月に研修会と交流会を行い、サポーターとスタッフとで意見交換ができた。また4名のプロジェクトサポーターと数か月会議を重ねて企画した「オープンハウス」のステージでは、公募で選ばれた「アウトリーチセミナー」修了生らによるプログラムを実施、近隣のたくさんのファミリー層に楽しんでいただけた。

「オープンハウス」ではコロナ禍以降はじめて当日サポーターも募集、登録サポーターほか第一生命ホール

社員合わせて 23 名が参加しトリトンスクエアグラウンドロビーでのサポーター企画「いろいろ音楽体験」で活躍した。

インターンは昭和音楽大学から 1 名を受け入れ、「林美智子のモーツァルト／ダ・ポンテ三部作」公演に集中的に参加してもらった。

NPO 組織運営体制

コロナ5類移行となったが、働き方改革の一環として在宅勤務を継続（但し割合は減少）する一方で、勤怠管理システム（楽々勤怠）を導入し、職員の勤務状況の見える化を実施し、各人の業務効率化を図った。なお、監事による年 2 回の定例監査では、特段の指摘事項は無かった。

決算の状況

(1) 活動計算書

経常収益 147,199 千円（2022 年度比 103.2%） 経常費用 147,368 千円（2022 年度比 106.7%）

当期正味財産増減額 ▲169 千円（2022 年度比 ▲3.7%）

前期繰越正味財産額 76,738 千円

次期繰越正味財産額 76,569 千円

・収益では、コロナ5類移行の影響などを受けて、公演数やお客数などはコロナ禍前の水準を上回り過去最高となった。そのためチケット売上高は増加したが、一方で文化庁補助金は、チケット売上げ好調のため当初予想よりも減額となり、収益全体では 2022 年度を若干上回る結果となった。

・費用では、公演制作費は、公演回数増加等の要因を受けて、昨年度に比べ増加した。一方で、アウトリーチなどの地域活動制作費は、昨年度よりも減少した。また、家賃や光熱費などの値上げ要因があったため、費用全体で 2022 年度を上回る結果となった。

・結果として、年度始予算では 283 万円の赤字予想であったが、赤字幅は大きく減少させることができた。

(2) 貸借対照表

資産 96,146 千円（2022 年度末比 98.7%） 負債 19,577 千円（2022 年度末比 94.9%）

正味財産合計 76,569 千円（2022 年度末比 99.7%）

*詳細は別紙財務諸表の活動計算書、貸借対照表、事業別損益の状況、財産目録の通り。

2. 評価委員会による評価

2.1. 評価の方法と考え方

第8期の評価委員会では、過去の評価委員会の評価項目や評価方法を参照し、「ホール公演事業」「コミュニティ事業」「人材育成事業」「NPO 組織運営体制」「総括」の5つの区分を設定し、それぞれに設問形式で2～4つの評価項目を設けた。「総括」では、他の4区分を横断する内容（ビジョン・ミッション／広報宣伝／支援者・ファン層の拡大／第一生命ホールとの適切な連携）も含めた総合評価を行うこととした。

また、1年間の実績や成果の良し悪しや目標の達成度合いを判断するランク付け（○△×等）は行わないこととし、「評価できる点」「改善すべき点／今後の取り組みが期待される点」の二つの枠組みを設定して、評価項目ごとに各委員から意見やコメントを出していただいた。

5名の委員それぞれの専門分野、視点に基づいた個々の意見やコメントは多様で、一つひとつに大切にすべきポイントやキーワードが含まれていたことから、評価項目ごとにその傾向を整理した上で、主要なコメントを要約、列記することとした。

それは、1年間の事業や運営の結果の良し悪しを評価するのではなく、成果や課題を再確認し、そこから今後の方向性を考える手立て、ヒントを見出していきたいと考えたためでもある。したがって、以下に記載する内容は、「評価」というより1年間の事業や運営の実績や成果を、評価委員の視点から「検証」したものと考えていただきたい。

2.2. 評価・検証結果

2.2.1 ホール公演事業

公演の内容については、第一生命ホールの規模や地域特性にあわせた主催公演が行われていること、集客やチケットの売り上げについては、若年層への券売などで成果があったことなど、全体的に評価する意見が多かったが、新たな企画に期待するコメントもあった。

① 公演シリーズ・公演ごとのねらい、目的に沿って企画・制作を実施できているか？

[評価できる点]

- 第一生命ホールの規模や地域特性、社会情勢に合わせた主催公演の企画・制作は高く評価できる。
- それぞれのシリーズは目的、対象が明確でそれに合致した演奏会が企画されている。
- 長期的な視点を持って、演奏家とともに理解・共有しあい、企画を実践、発展させている。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 柱となる継続的な企画のほかに、新たな客層の掘り起こしなど、新規企画にもチャレンジして、公演事業全体のレベルアップを図っていただきたい。
- 「晴れオケ」の追加公演の成功を参考に、それ以外の企画（例えば宮田大や小山実稚恵）でも追加公演にトライしてはどうか。
- ラインナップの中でどれを選べばよいか、ビギナー向けのナビゲーションがあるとよいかもかもしれない。

② 公演別集客目標・チケット売上目標を達成できているか？

[評価できる点]

- 目標に達しない公演もあるが、全体で94.9%と概ね達成している。目標値との乖離が約5%というのは許容範囲ではないか。
- U25券の販売枚数が前年比1.6倍と若年層の聴衆開拓で成果があったこと、招待客の属性分析から招待席数を見直して券売を伸ばしたことは、素晴らしい成果。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 目標を達成しなかった公演については、その原因や課題の把握、改善策の検討がなされているが、そうした取り組みを継続することで目標達成を目指してほしい。

2.2.2. コミュニティ事業

アウトリーチの規模(実施回数)の大きさや水準の高さ、対象者に寄り添った丁寧なプログラムづくり、また事業のビジョンに共感する市民の協力を得ながら適切な運営体制を組んでいる点について高く評価する意見が多かった。一方で、スタッフの負担が分散されるよう、アウトリーチのスケジュール調整に期待するコメントもあった。

① アウトリーチのねらい、目的に沿った確実な実施ができているか？

[評価できる点]

- 中央区内のほぼすべての公立小学校に、ホール公演にも出演する演奏家を派遣するなど、アウトリーチの規模(実施回数)および水準の高さは、高く評価できる。
- 小学校や特別支援学校、高齢者施設等におけるアウトリーチでも、受け入れ先の要望または制約を鑑みながら、対象者に寄り添ったプログラムを丁寧に実施できている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- (視察した事業の中に、演奏家のMCなどの改善点が散見されるものもあったことから) 事業の振り返り、課題の共有と改善などを続けて、より良いアウトリーチにつなげて欲しい。
- 第一生命保険を交えて、今後のコミュニティ事業のミッションを改めて共有し、両者の役割を明確にすることで、更なる拡がり期待できるのではないか。

② 連携先や対象の広がりなどによって、より充実したコミュニティ事業が実施できているか？

[評価できる点]

- 他館の企画制作を請け負うなど、オリジナルコンテンツを強みとするクリエイティブな活動については、高く評価できる。
- 小学校だけでなく、幅広い年齢層や属性にアプローチすることで、第一生命ホールやクラシック音楽を身近に感じる機会を創出している。
- 三菱地所や都市緑化機構、商業施設など、件数は限られるものの連携先の広がりと共に伴う事業の充実が図られている。
- コミュニティ事業(中央区民カレッジ講座など)を通して、地域にトリトン・アーツ・ネットワークの取り組みが認知され、ひいては支援の拡充に繋がっていることは素晴らしい。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 連携先や対象の広がりによる事業の充実も重要である一方、スタッフの負担も考慮に入れながら、コアとなるアウトリーチ先（小学校など）との信頼関係の維持・発展にも留意すべき。
- 中央区と連携した事業をより積極的に実施できれば、行政の理解促進、予算化への先鞭にならないか。
- 三菱地所との協働メセナや4館連携公演など、今後も外部団体との交流および組織間のリソースやノウハウの活用によって相乗効果を高め、ひいては事業全体に還元できることが期待される。
- 他県での公演で企画制作を請け負った実績を活かし、コミュニティ活動についても他県での展開を視野に入れられないか。

③ コミュニティ事業を適正かつ円滑に実施するための十分な運営体制が整えられているか？

[評価できる点]

- 事業のビジョンに共感する市民の協力を得ながら、少人数でも不測の事態に備え補完し合えるような運営体制を組んでいる。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 長期的な視点から運営体制の安定化を図るため、サポーター要員の確保や研修を続けることが望まれる。
- 可能な限りスタッフの負担が分散されるよう、アウトリーチのスケジュール調整が出来るとうい。

2.2.3. 人材育成事業

若手演奏家の育成については、アウトリーチセミナーでの学びが実践現場（アウトリーチ）に活かせるような仕組みになっていること、専門人材の育成については、継続的にインターン生を受け入れていること、サポーターの育成については、定期的に研修会や交流会を開催し、スタッフと意見交換を行ったり、知見を得たりできる機会を設けている点を評価する意見が多かった。一方、アウトリーチセミナーにおいては、受講生の力量によって最初の実践の場に講師も立ち合うなど、更なるアウトリーチの質の向上を期待するコメントがあった。

① 若手演奏家の育成及び活動支援ができてきているか？

[評価できる点]

- アウトリーチセミナーでの学びが、実践現場（アウトリーチ）に活かすことができる、座学と実践の組み合わせは素晴らしい。
- ホール公演事業の中にも、ベテランと若手を組み合わせた企画などを通して、人材育成の要素が取り入れられている。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- アウトリーチセミナーにおいて、受講生の力量によっては、最初の実践の場に講師も立ち合うなど、更なるアウトリーチの質の向上を図る取り組みに期待したい。
- 他ホールと連携する等により、アウトリーチセミナー修了生やウェールズ・アカデミー修了生の活動の場の更なる拡充が図れるとうい。

② アートマネジメント専門人材とスタッフの育成が適切に図られているか？

[評価できる点]

- 人数は限られているもののインターン生を受け入れることで、学生に貴重な現場経験を提供し、将来の進路選択を考える上での一助になっている。
- 他の文化施設や大学でレクチャーを行うことを通して、活動で得られた知見を関係機関と共有している。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- スタッフの人材育成が、スタッフ個人個人の意識や責任感に寄りすぎていないか。研修の体系化や制度化など、検討の余地はないか。
- スタッフの負担も考慮しつつ、インターンの受け入れ人数を増やすことはできないか。

③ サポーターの育成は適切に行われているか？

[評価できる点]

- 新型コロナ5類移行を受けてサポーターの活動が活発になってきたこと、新規サポーター4名の登録があったことは成果。
- サポーター向けの研修会、交流会を実施することで、スタッフと絆を深めたり、意見交換や知見を得たりできる機会が設けられている。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- より多くのサポーターの参加を促していけるよう、研修会や交流会の内容を工夫したり、サポーターの活動を広報の一環として取り上げる等の工夫をしてはどうか。

2.2.4. NPO 組織運営体制

働き方改革として勤怠管理システムを導入したことや有給休暇を全員取得できたこと、財政基盤については、法人会員や助成金・補助金等を含め全体的なファンドレイズへの取り組みと実績について高く評価する意見が多かった。一方、スタッフが疲弊しないよう、全員が振替休日を取得できるよう改善を求めるコメントがあった。

① コンプライアンス、情報資産保護に関して徹底できているか？

[評価できる点]

- 問題なく適切に運営されている。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 感染症対策について、公演はもとより、それ以前の練習や稽古などの段階から、引き続き徹底した対応をお願いしたい。

② 働き方改革、業務の見直しによる生産性向上が図られているか？

[評価できる点]

- 勤怠管理システムの導入等もあり、スタッフ全員が有給休暇を取得できている。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 事業の充実に伴い、半数以上のスタッフの労働時間が増加している点は、今後の組織運営における課題。まずは全員が振替休暇を取得できるとよい。

③ 財政基盤の充実と安定化が図られているか？

[評価できる点]

- 法人会員、文化庁等の補助金などを含め、全体的なファンレイズへの取り組みと実績は高く評価できる。
- 事業収入については、公演プログラムの工夫や販促努力によってチケット売上が好調だったこと、また他団体から企画料収入を得ている点も評価できる。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 文化庁の補助金を獲得するのが難しい状況の中、個人・法人会員との関係維持も含め、ホールのファン層を継続的に増やす努力を続けて欲しい。
- 企画料収入が、今後もトリトン・アーツ・ネットワークの重要な経営資源となることを期待。

④ 評価委員会との適切な連携が図られている

[評価できる点]

- 事業内容や運営方法について丁寧な説明の機会が設けられており、細やかに情報共有されている。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 視察前に、全体顔合わせの機会があったり、（評価委員が）年間の事業計画や個々の事業の狙いなどを把握できていると、自己の判断に依らない視点で視察先などを検討できる。

2.2.5. 総括（ビジョン・ミッション／広報宣伝／支援者・ファン層の拡大／第一生命ホールとの適切な連携など）

ホールの規模や地域特性等に対応しながら、ビジョン・ミッションの実現に向けて適切に事業展開が図られていること、客層の分析からの確な目標値を設定することによって、確実にチケット売り上げに結びつけている点を高く評価する意見が多かった。一方、今後の課題として、第一生命保険および第一生命ホール（第一ビルディング）とより良い連携を築くため、課題を出し合い、改善に向けた議論を行ってはどうかという提案があった。

[評価できる点]

- ホールの規模や地域特性、ライフスタイルの変化等に柔軟に対応しながら、ビジョン・ミッションの実現に向けて適切かつ積極的な事業展開が図られている点は、高く評価できる。
- 客層の分析や目標値の設定も的確、効果的な広報戦略を立てることで、（コロナ禍を経ても）確実にチケットの売り上げに結びつけている点は高く評価できる。
- 企画料収入を得るなど、オリジナルコンテンツの強みをいかした活動について、高く評価できる。
- 若手演奏家に対する人材育成事業については、クラシック音楽の分野全体にも波及するものとする。

[改善すべき点／今後の取り組みが期待される点]

- 第一生命ホール（第一ビルディング）との関係について、一度双方から課題を出し合い、改善に向けた検討および今後の展開について議論を進めるべきではないか。第一生命保険にとって何がベストか、第一生命ホールの管理・運営やトリトン・アーツ・ネットワークの事業を含め、組織全体のマネジメントやブランド価値向上の視点から、総合的な判断が望まれる。
- 広報宣伝活動において、チケットの購入を促すものだけでなく、トリトン・アーツ・ネットワークが行っていること自体に共感してもらえるような工夫も必要か。
- 支援者やファン層の拡大に向けた広報宣伝活動をより充実させることが望ましい。第一生命保険の社内報への活動紹介は、社会貢献への意識が高い若手社員の社内エンゲージメント向上にも繋がるのではないか。
- 対外的な広報宣伝活動においては、紙媒体の制作負荷を減らし、ウェブサイトへ誘導するような設計を検討してはどうか。

<資料編>

1. 第一生命グループとの関係およびトリトンアーツ組織図

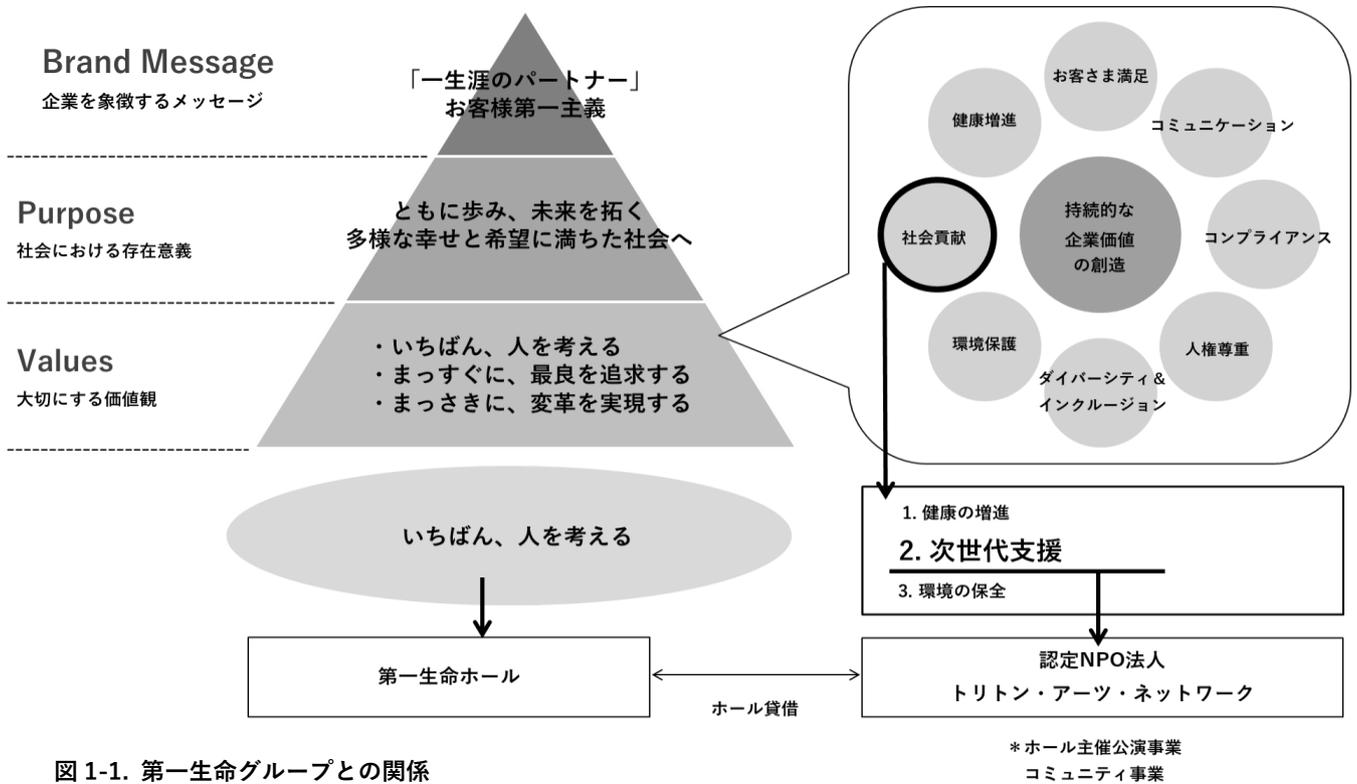


図 1-1. 第一生命グループとの関係

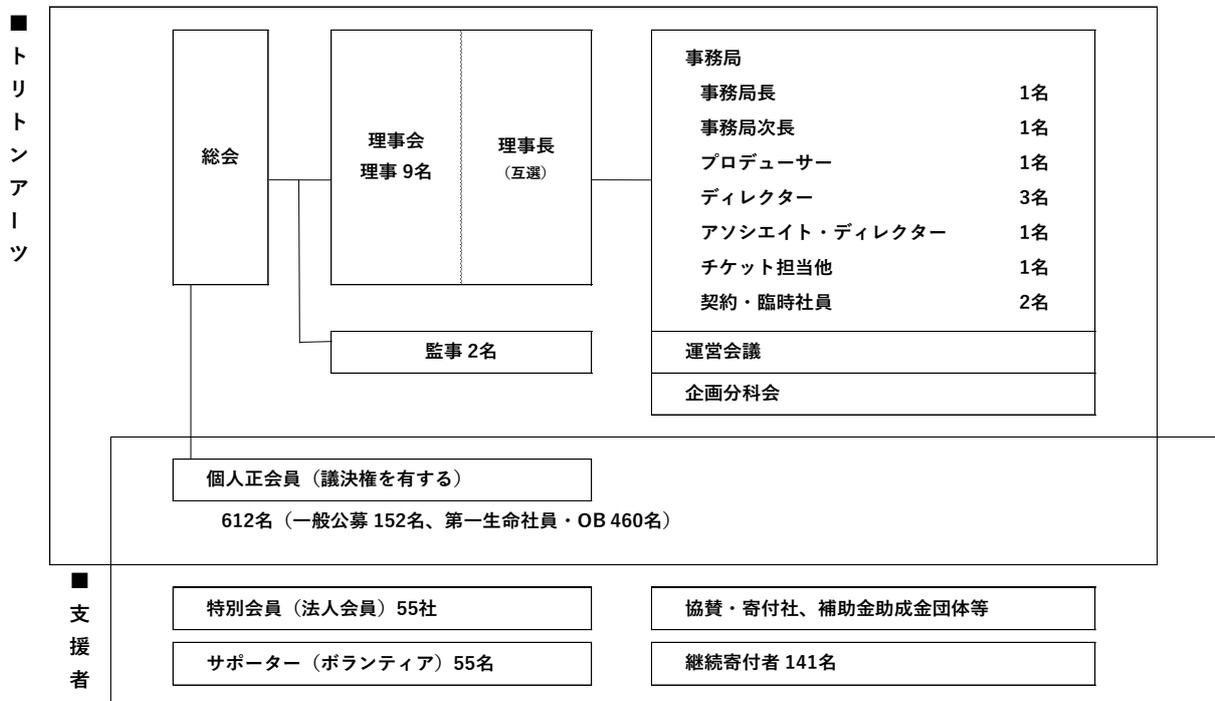


図 1-2. 組織図（数字は 2024 年 4 月現在）

2. ホール公演事業

公演入場料収入・入場者数

表 2-1. 公演入場料収入、主催・共催公演入場者数

公演入場料収入 (単位：千円)	7,565	9,594	9,721	9,091	13,188	21,856	20,479	20,909	23,372	18,322
年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	9,125	10,035	12,074	9,592	9,837	14,501	11,501	12,513	11,403	10,094
公演入場料収入 (単位：千円)	24,350	25,164	25,260	25,102	26,453	24,910	13,470	24,072	38,451	43,539
年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	13,174	14,721	13,083	14,727	14,818	13,217	5,477	8,355	14,229	16,047

図 2-1. 公演入場料収入推移

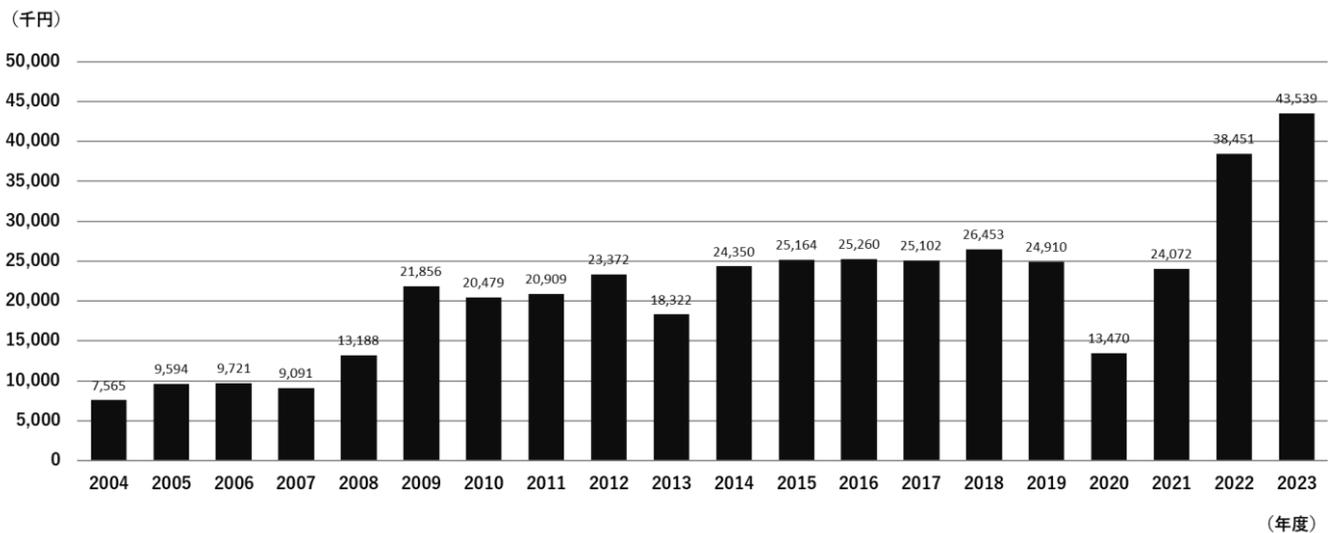
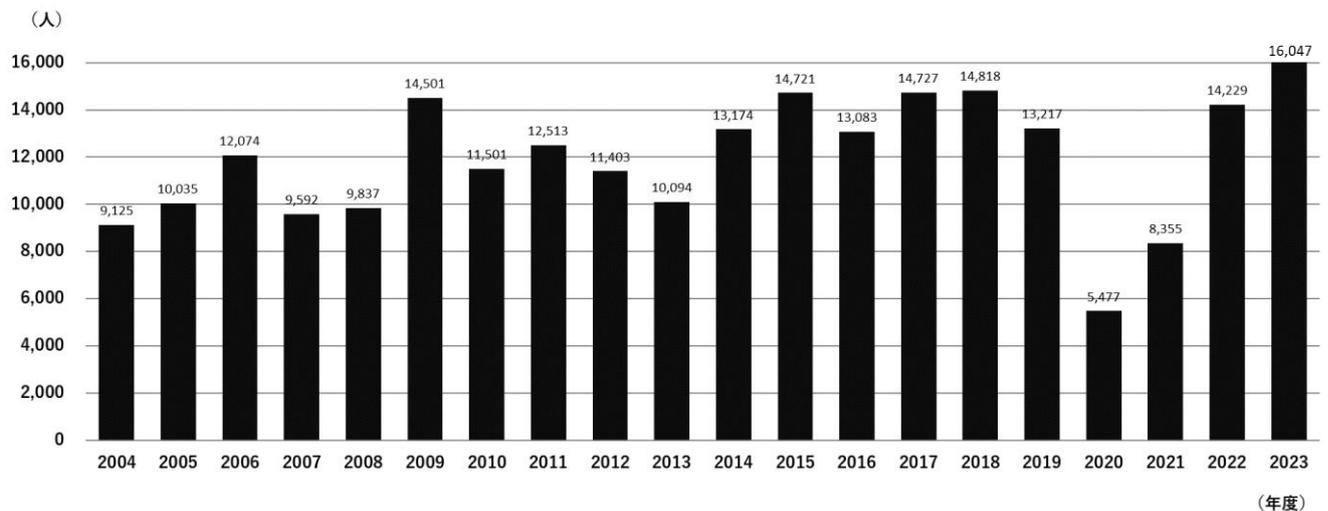


図 2-2. 主催・共催公演入場者数推移



3. コミュニティ事業

事業実施状況

表 3-1. アウトリーチ実施場所・実施回数

場所・回数	年度																		
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
小学校	16	15	12	13	12	13	12	16	16	19	18	17	19	20	14	17	20	18	
回数	18	15	12	20	21	24	18	20	19	19	18	18	20	20	14	17	23	19	
幼稚園等	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6	6	7	
回数	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6	6	7	
病院・介護施設	5	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	5	2	2	3	5	
回数	8	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	6	2	2	3	5	
その他	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	8	12	8	
回数	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	10	14	8	
実施場所数計	31	27	28	23	21	20	21	27	25	31	31	36	44	40	26	33	41	38	
実施回数計	36	27	28	30	30	31	27	31	28	31	31	37	45	41	26	35	46	39	
協力企画	2	2	2	2	4	7	4	3	3	2	2	6	5	2	0	4	6	6	

図 3-1. アウトリーチ実施場所推移

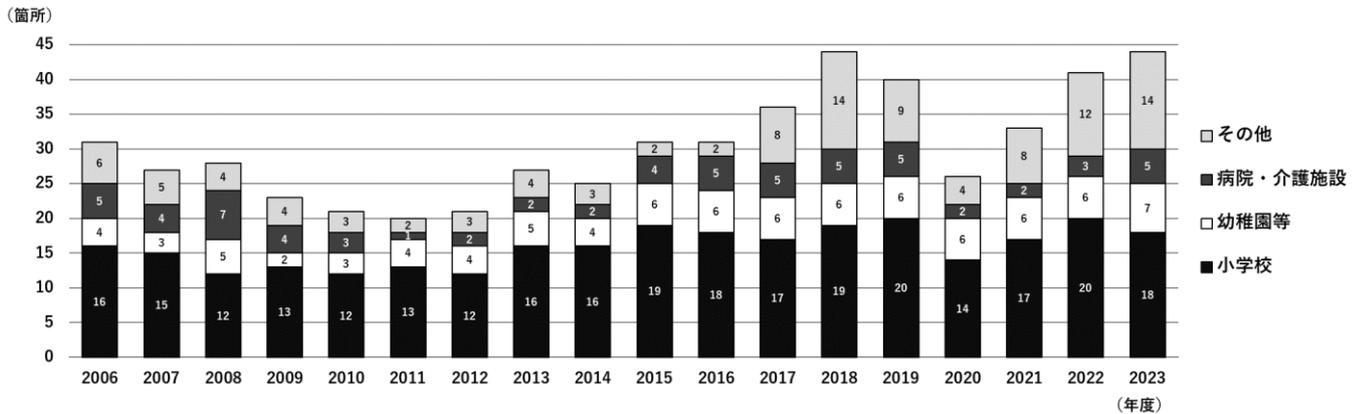
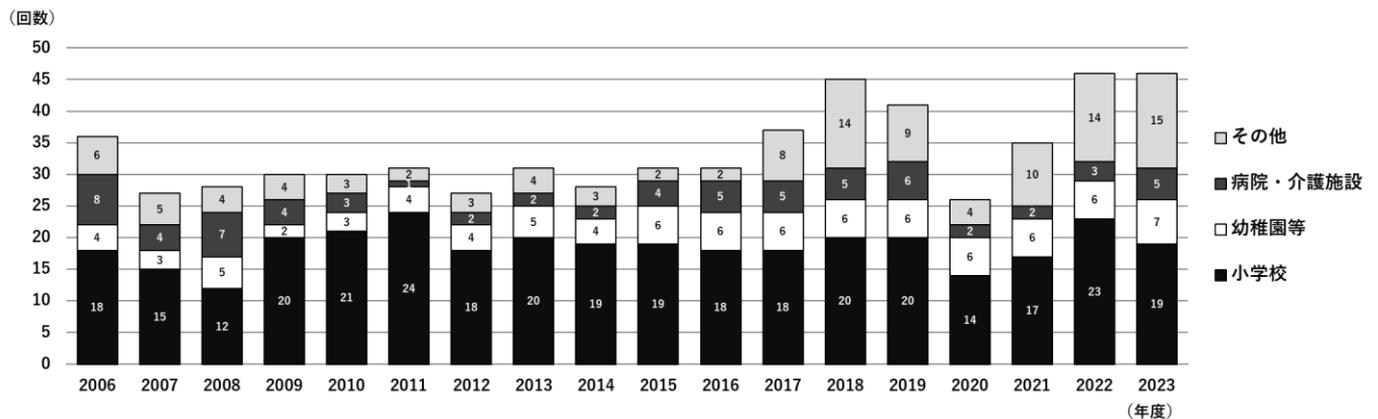


図 3-2. アウトリーチ実施回数推移



4. 人材育成事業

サポーター状況（2024年3月31日時点）

表・図 4-1. サポーター数概要

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
サポーター数	87	84	77	68	69	58	61	73	63	73	64	72	72	77	75	76	69	63	55
うち中央区民	18	19	20	17	23	20	20	24	21	24	22	17	21	20	16	19	20	16	17
実働数			35	60	62	58	61	73	63	61	52	58	70	63	60	4	31	40	50

(単位：人)

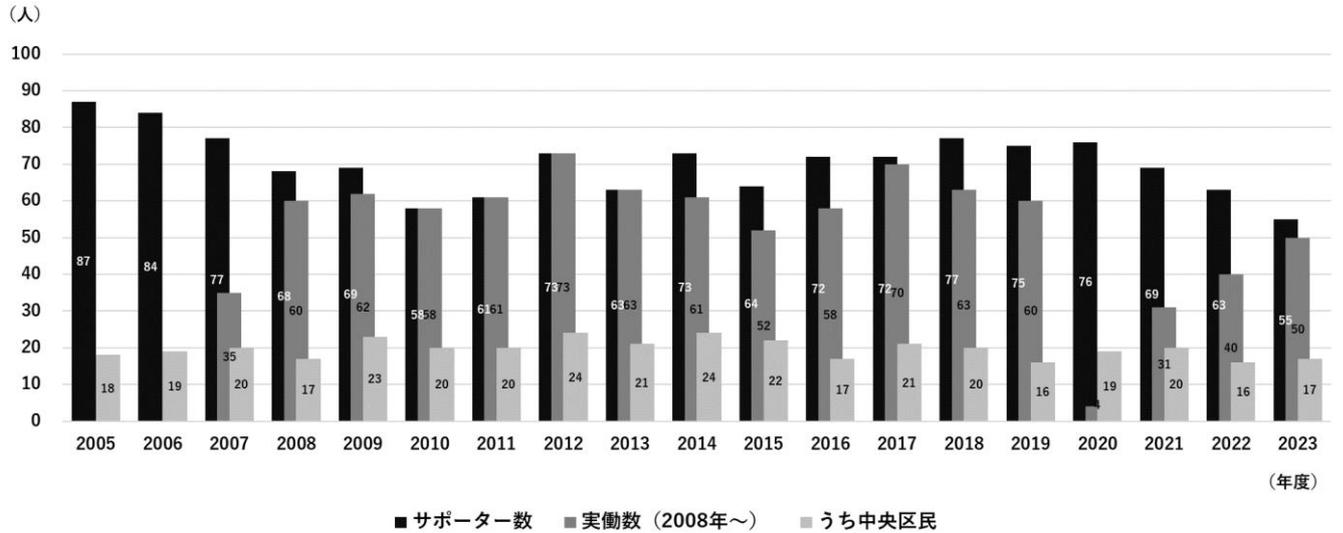
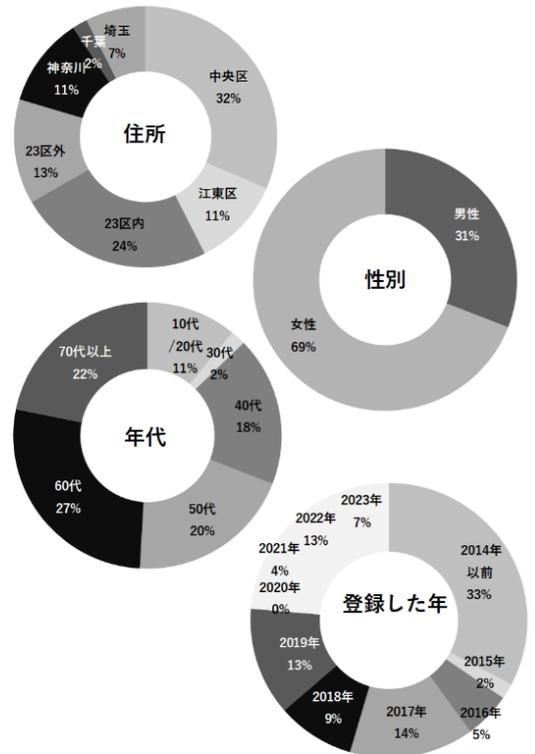


表 4-2. サポーター数推移・属性

(単位：人)		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
サポーター数		63	73	64	72	72	77	75	76	69	63	55	
住所	中央区	21	24	22	17	21	20	16	19	20	16	17	
	中央区外	42	49										
	江東区			8	8	11	11	12	12	9	7	6	
	23区内			16	21	20	26	23	22	22	18	13	
	23区外			6	6	2	1	4	4	4	7	7	
	神奈川			6	10	8	11	11	11	9	8	6	
	千葉			3	7	5	4	4	4	2	2	1	
	埼玉			2	1	3	3	4	4	4	2	3	4
	茨城			1	2	2	1	0	0	1	1	0	
静岡								1				0	
性別	男性	19	19	13	18	15	15	17	18	16	16	17	
	女性	44	54	51	54	57	62	58	58	53	47	38	
年代	10代/20代			7	16	13	19	10	8	7	11	6	
	30代			3	5	3	4	8	7	5	2	1	
	40代			14	15	17	15	9	13	12	9	10	
	50代			10	10	11	12	20	20	19	15	11	
	60代			18	16	15	15	14	15	11	13	15	
	70代以上			9	10	13	12	14	13	15	13	12	
	不明			3									
登録した年	2014年以前			36	28	23	20	20	18	21	21	18	
	2015年			14	11	8	7	5	5	3	1	1	
	2016年			14	8	8	5	4	4	5	5	3	
	2017年				25	17	12	7	7	10	8	8	
	2018年					16	15	10	10	7	6	5	
	2019年						18	11	9	10	7	7	
	2020年							18	18	5	1	0	
	2021年								5	8	7	2	
	2022年									7	7	7	
	2023年											4	
新規登録 退会状況	新規登録	9	20	13	25	16	18	18	5	8	7	4	
	退会	19	10	22	17	16	13	20	4	15	13	12	

図 4-2. 2023年度サポーター属性



5. NPO ガバナンス

個人会員・特別会員（法人会員）・寄付等状況

表 5-1. 会員別年会費区分

個人正会員		1口 1万円
特別会員（法人会員）	エステルハージ・サークル会員	1口 10万円（5口以上）
	ラズモフスキー・サークル会員	1口 10万円（2口以上～4口以下）

表 5-2. 会員状況・助成先・協賛先推移

年度 分類		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
個人会員 (単位：口)		827	790	747	710	765	723	683	650	657	671	745	736	733	716	682	645	618	612
個人会費額 (単位：千円)		8,000	7,990	7,560	7,310	7,730	7,460	7,410	6,510	6,650	6,840	7,550	7,530	7,420	7,360	7,050	6,720	6,430	6,330
個人会員 内訳 (単位：口)	第一生命	505	486	458	447	516	502	481	455	463	484	567	563	566	554	524	499	468	460
	その他	322	304	289	263	249	221	202	195	194	187	178	173	167	162	158	146	150	152
法人会員 (単位：口)		33	31	30	41	45	44	44	43	44	44	45	46	52	53	55	54	54	55
法人会費額 (単位：千円)		11,100	10,800	9,900	16,800	19,900	20,800	20,900	21,400	21,900	22,200	22,200	20,100	24,600	23,800	23,400	22,800	19,700	23,000
助成件数 (単位：件)		10	8	4	7	6	9	4	3	2	2	3	3	5	3	4	4	5	4
助成金額 (単位：千円)		12,200	11,018	6,034	10,795	6,649	14,262	10,048	9,148	9,103	7,515	5,670	8,560	10,560	9,879	11,655	12,012	11,501	7,809
協賛・寄付社件数 (単位：件)		3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	7
協賛・寄付金額 (単位：千円)		61,198	61,170	65,730	69,801	55,500	50,600	48,500	48,600	48,800	50,000	53,750	50,450	49,304	51,604	50,979	54,230	54,104	59,004
個人寄付者 ※内諾者含む申込ベース (単位：名)								153	207	200	201	198	186	180	175	291	170	183	161
個人寄付金額 (単位：千円)								28	1,329	1,337	1,440	2,334	2,646	1,869	2,429	3,847	2,565	4,634	3,369

図 5-1. 個人会員数推移・内訳

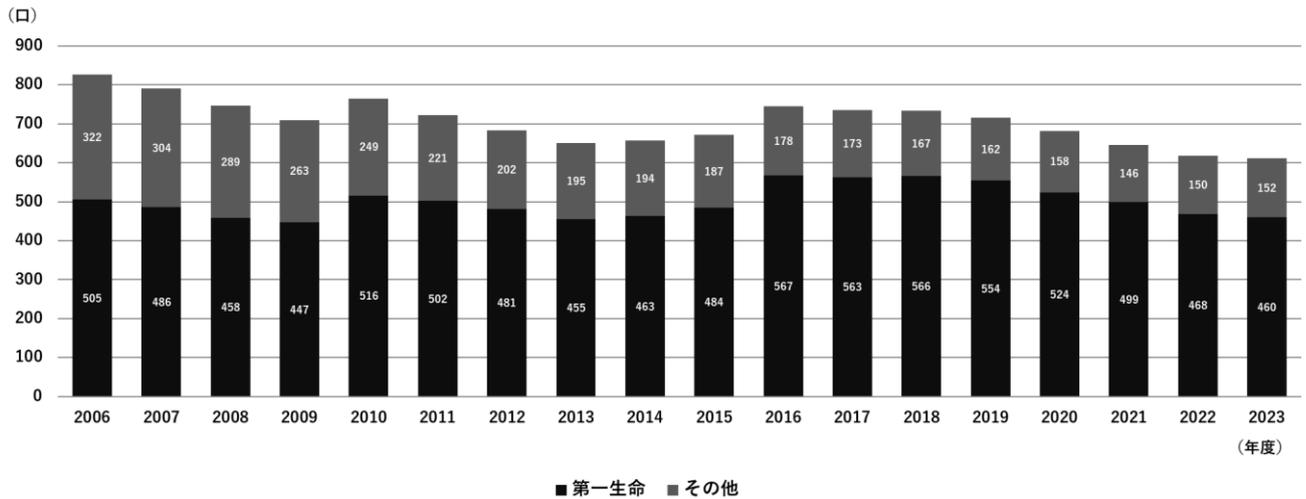


図 5-2. 法人会員数推移

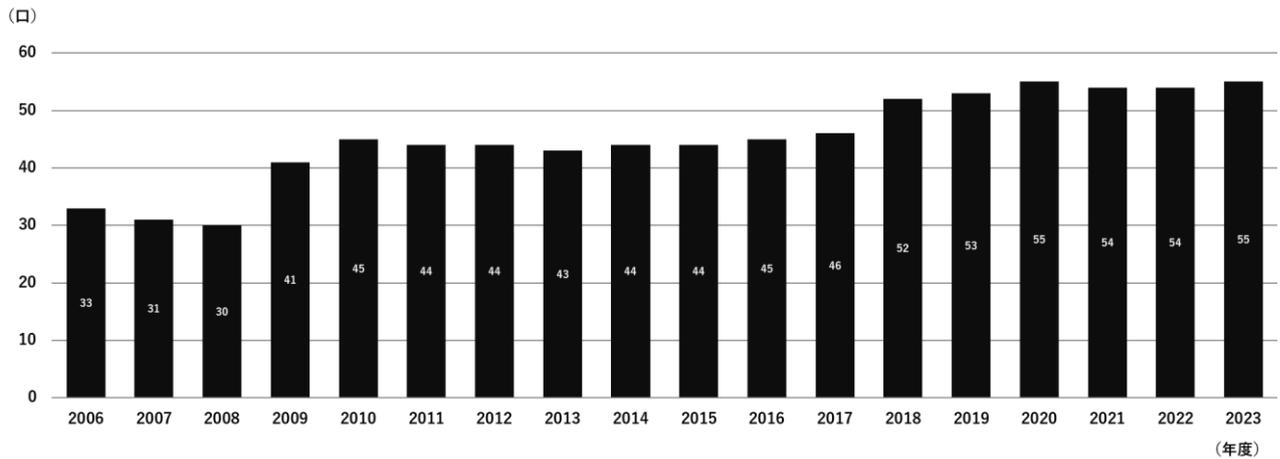
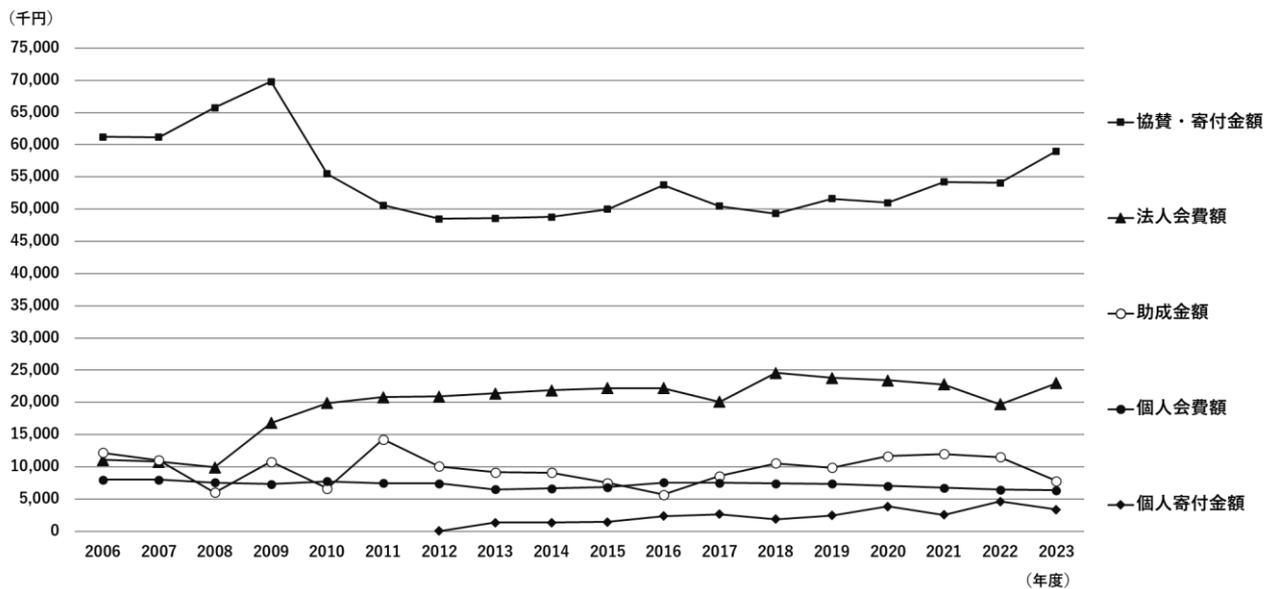


図 5-3. 会費・助成金・寄付金額推移



6. 2023 年度トリトンアーツ主催公演における顧客分析抜粋

◎ 本データは、主にトリトンアーツ主催公演のトリトンアーツ・チケットデスクでのチケット購入者を対象に集計を実施。各プレイガイドでの購入者は集計対象には含まれていない。
2023年度対象公演のシリーズ別一覧は右図のとおり。

◎ 集計方法

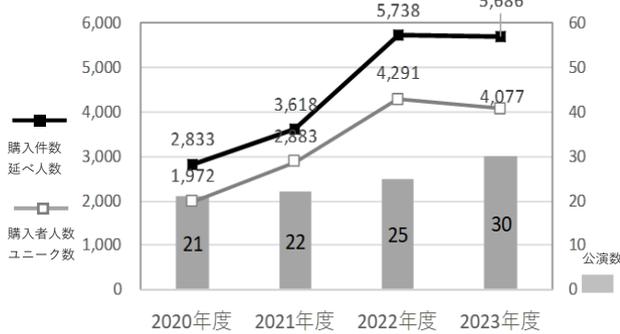
[購入公演数] ⇒ 購入者人数 (ユニーク数) で集計
その他 ⇒ 購入件数 (延べ人数) で集計

◎ 「購入履歴無」の購入者 = 初購入者

「購入履歴有」の購入者 (2回目以降) = リピーター と定義

◎ 顧客の性別・年齢はオンライン会員登録をしている顧客のみ集計 (電話・来社予約等では性別・年齢情報は未確認。)

◎ 集計対象



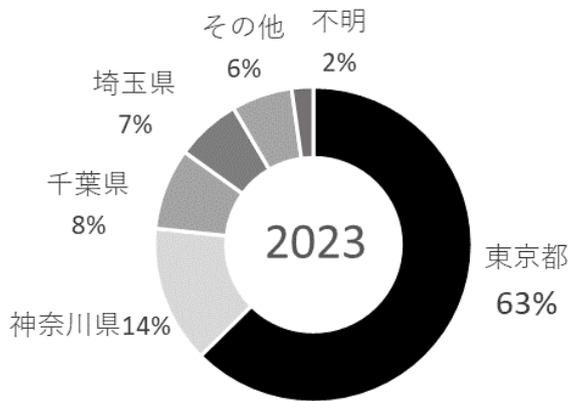
◎2023年度顧客分析対象公演

公演名	公演数
SQW (クアルテット・ウィークエンド・シリーズ)	3公演
1 2024/1/27 (土) クアルテット・インテグラ	
2 2024/2/4 (日) ウェールズ弦楽四重奏団~ウェールズ・アカデミー ガラ・コンサート	
3 2024/3/16 (土) クアルテット・エクセルシオ×カルテット・プリマヴェーラ	
ウィークエンドコンサート	10公演
1 5/13 (土) 室内楽ホールdeオペラ 林美智子の「コジ」	
2 6/10 (土) 室内楽ホールdeオペラ 林美智子の「ドン・ジョヴァンニ」	
3 7/8 (土) 室内楽ホールdeオペラ 林美智子の「フィガロ」	
4 8/26 (土) 三浦一馬 東京グランド・ソロイスツ 第7回演奏会 1回目	
5 8/27 (日) 三浦一馬 東京グランド・ソロイスツ 第7回演奏会 2回目	
6 10/21 (土) トリトン晴れた海のオーケストラ第13回演奏会	
7 11/25 (土) ホルンの室内楽III パボラーク・アンサンブル	
8 12/2 (土) 小山実稚恵の室内楽・新章 第1回 小山実稚恵&矢部達哉&宮田大	
9 2024/1/14 (日) トリトン晴れた海のオーケストラ第14回演奏会	
10 2024/2/17 (土) 宮田 大 Dai-versity 第2回 映画音楽と作曲家たち	
ごほうびクラシック	5公演
1 5/5 (金祝) 第5回 【昼の部】村治佳織ギター・リサイタル	
2 5/5 (金祝) 【夜の部】村治佳織&村治奏一 ギター・デュオ	
3 9/10 (日) 第6回 東京メトロポリタン・プラス・クインテット	
4 10/9 (月祝) 第7回 奏トリオ	
5 12/3 (日) 第8回 ピアノ・オールスターズII	
子どもといっしょにクラシック	6公演
1 9/9 (土) 心にひびく 歌のコンサート (1回目)	
2 9/9 (土) 心にひびく 歌のコンサート (2回目)	
3 12/10 (日) クリスマス・オーケストラ・コンサート (1回目)	
4 12/10 (日) クリスマス・オーケストラ・コンサート (2回目)	
5 12/10 (日) クリスマス・オーケストラ・コンサート (3回目)	
6 2024/3/2 (土) 音楽と絵本コンサート『うきわねこ』	
ロビーでの乳幼児向けコンサート	3公演 (計18回公演)
1 8/3 (木) 4 (金) 第39回 0~3歳児と妊婦さんのためのコンサート (6回公演)	
2 11/27 (月) 29 (水) 第40回 0~3歳児のためのコンサート (6回公演)	
3 2024/3/6 (水) 7 (木) 第41回 0~3歳児のためのコンサート (6回公演)	

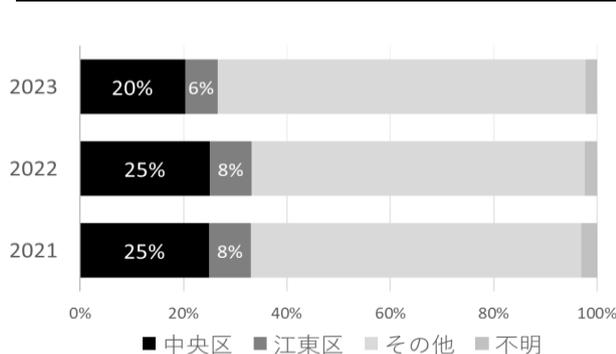
※1 ロビーでの乳幼児向けコンサートは各2日公演、クリスマス・オーケストラ・コンサートは3回公演
三浦一馬 東京グランド・ソロイスツ 第7回演奏会は 2回公演、心にひびく歌のコンサートは 2回公演として集計

※2 共催公演(6公演)は、集計対象外

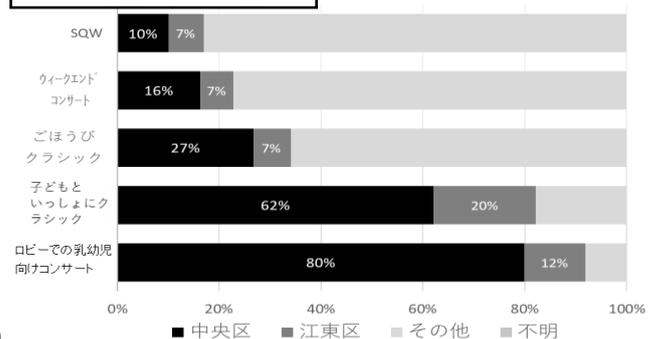
チケット購入者の居住地 (オンライン予約&Tel・来社他)



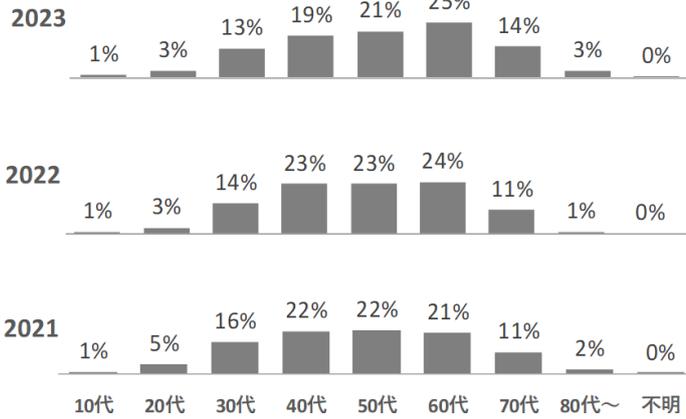
チケット購入者の居住地 (中央区・江東区が占める割合) (オンライン予約&Tel・来社他)



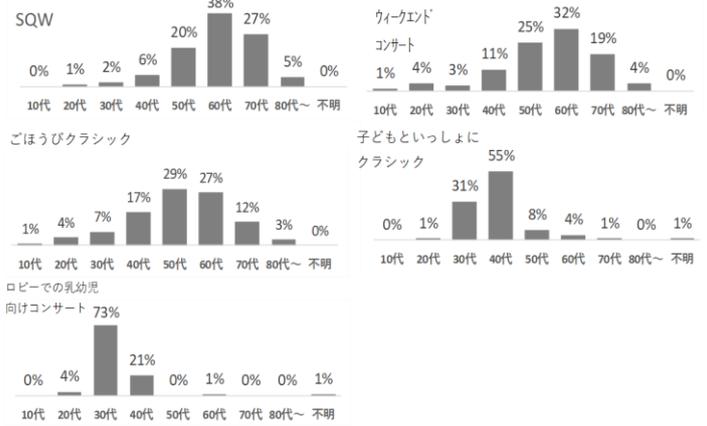
2023 年度シリーズ別



チケット購入者の年代 (オンライン予約)

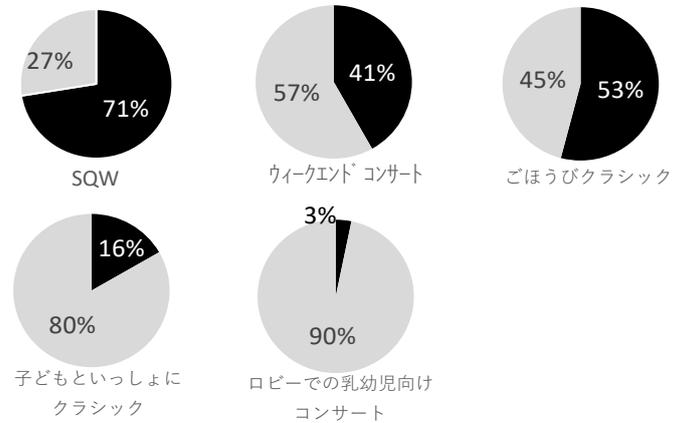
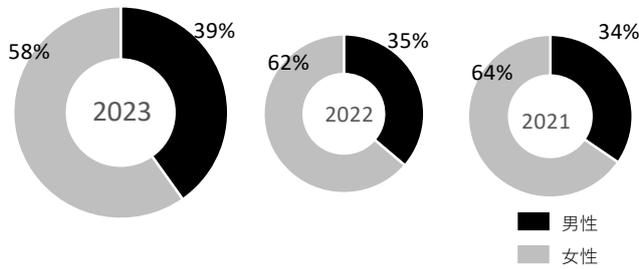


2023 年度シリーズ別

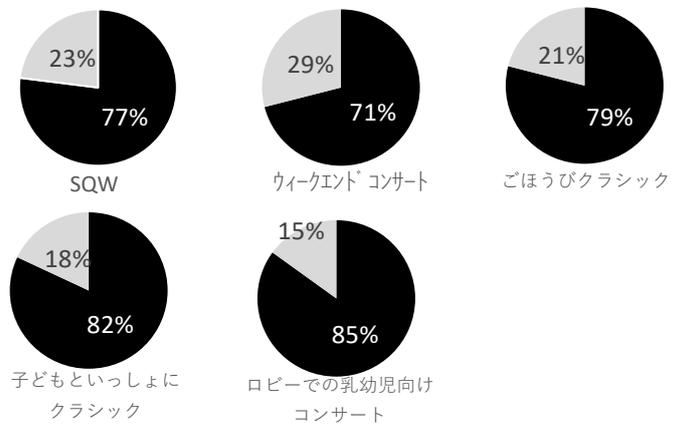
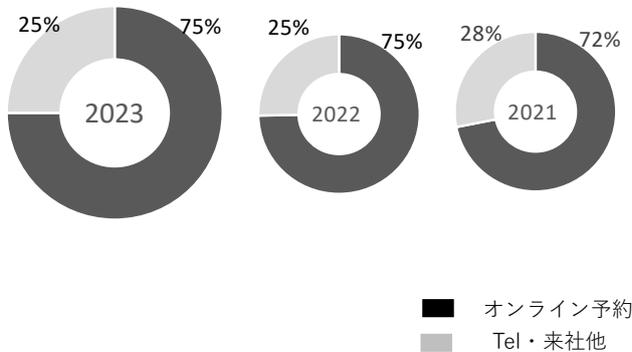


チケット購入者の男女比 (オンライン予約)

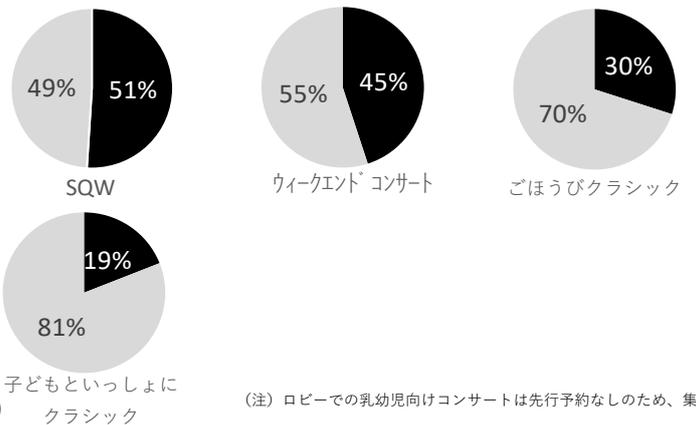
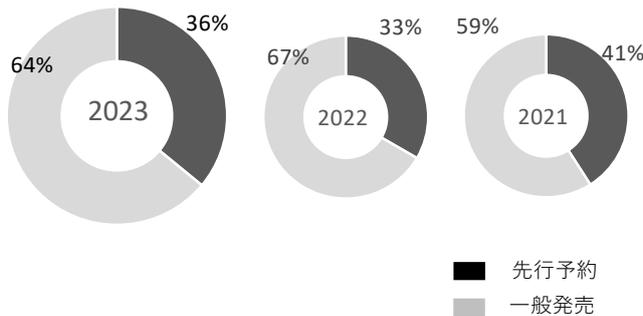
※不明(未回答)があるため、合計100%とならない場合もある



チケット購入方法 (オンライン予約 & Tel・来社他)

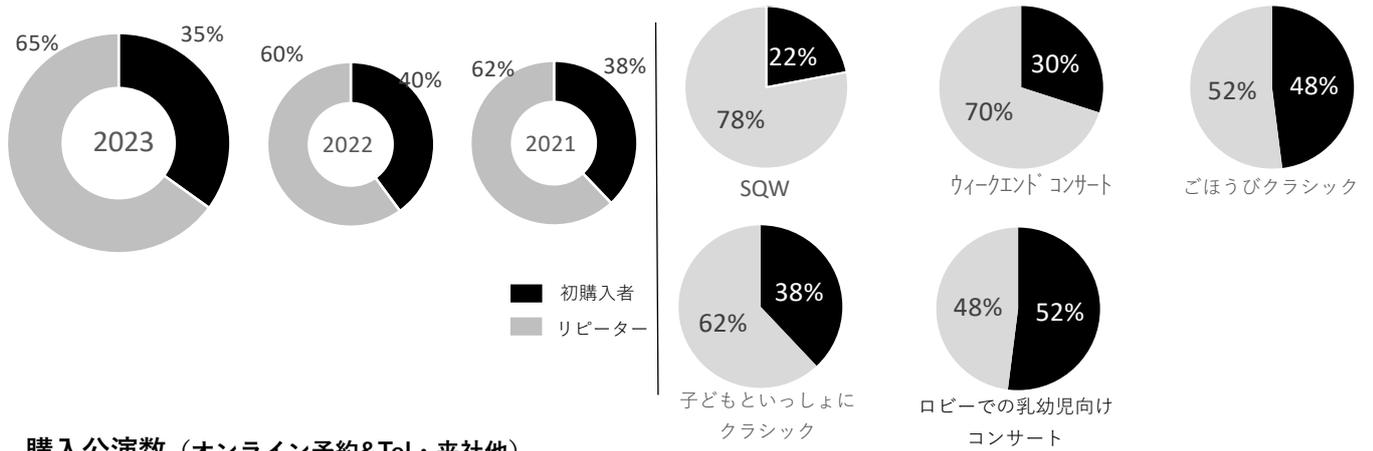


先行予約利用状況 (オンライン予約 & Tel・来社他)

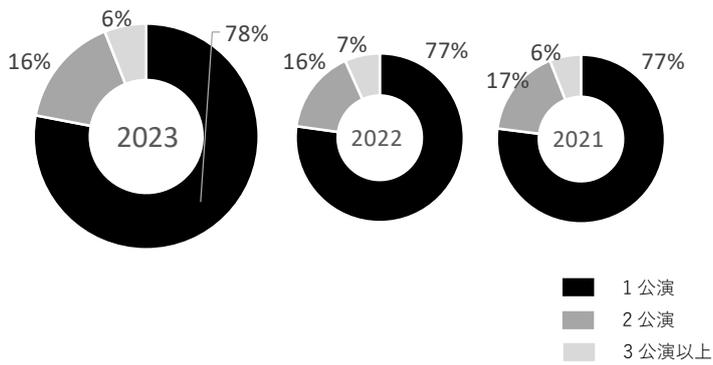


(注) ロビーでの乳幼児向けコンサートは先行予約なしのため、集計外

初購入者・リピーターの割合（オンライン予約&Tel・来社他）



購入公演数（オンライン予約&Tel・来社他）



（出典：トリトンアーツ事務局作成資料）

認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク 2023 年度評価事業報告書
認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会編

発行 2024 年 6 月

認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

〒104-6005 東京都中央区晴海 1-8-10

晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワー X 棟 5 階

TEL : 03-3532-5701 FAX : 03-3532-5703

URL : <https://www.triton-arts.net/>
